

「マイナス1歳」からはじめるむし歯予防

～妊娠中からキシリトールやロイテリ菌を食べれば、お子さんのむし歯予防も出来るんです～

お子さんのむし歯予防は、歯が生えてから予防を始める方も多いと思いますが、実は生まれる前から行うことによってより効果があります。

「感染の窓」ってご存知ですか？

生まれたばかりの赤ちゃんには、むし歯の原因になるミュータンス菌は存在しません。「感染の窓」と呼んでいる1歳7か月～2歳半くらいまでの頃に、家族の唾液からむし歯菌が赤ちゃんに感染するかもしれないので、将来のむし歯のリスクが大きく変わります。

そこで必要なのが発想の転換

1. 子どものお口の中に感染してもかまわない菌(定着しにくい善玉菌)に変える!!

お子さんに移る前にむし歯菌を(お母さんやお父さんの口の中にいる間に)善玉菌に変えましょう。

むし歯菌の母子感染予防の対策として「菌の質を変える」、すなわち感染する前にむし歯菌を歯からはがれやすい善玉菌に変えることが大切です。



2. キシリトールやロイテリ菌の使用

むし歯菌を善玉菌に変える働きとして期待できるのが、キシリトールとロイテリ菌です。

キシリトールとロイテリ菌を摂取することにより、むし歯菌は不溶性グルカンの産生できません。さらに、習慣的に摂取すると、むし歯菌は歯からはがれやすくなります。歯面への付着を阻害される結果、むし歯菌の感染が抑制されると考えられています。

キシリトールとロイテリ菌は薬物ではなく食品なので、妊娠中に摂取しても安全です。



※むし歯菌が善玉菌に変わるのには3か月ほどかかります。
キシリトールやロイテリ菌の摂取は継続的に行うことが大切です。

生まれてくるお子さんの為に
むし歯予防を考えるなら、生まれる前から
予防を行っていきましょう。